

令和 8 年度学校経営計画書

学校名 三次市立川地小学校

校長名 原田 和明

I 学校の状況

学級数	6 学級	児童・生徒数	4 9 名	教職員数	1 0 名
メールアドレス	kawachi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.miyoshi-kawachi-e.hiroshima-c.ed.jp/				

II 学校教育目標

- 【校 訓】 高 志
- 【学校教育目標】 ふるさとを愛し、高い志をもつ児童の育成
- 【めざす子ども像】 「自ら進んで考える子」
「かかわりあう子」
「心も体も健康な子」
- 【めざす学校像】 「確かな学力をつけ、児童の夢や希望が育つ学校」
「地域と連携し、信頼される学校」
「危機管理を徹底し、安全・安心な学校」
「教師の意欲と力量が高まる学校」
- 【川地中学校区めざす子ども像】
- (1) ふるさとを愛し、誇りに思う子供
 - (2) 夢と学び続ける力をもち、自己実現に向かう子供
 - (3) 社会の一員としての道徳性と積極的に社会へ貢献する志をもつ子供

III 使命・存在意義（ミッション）

地域の「ひと・もの・こと」を生かした体験・交流活動を充実させるとともに、知・徳・体の調和のとれた児童を育成することにより、保護者・地域の願いに応える。

IV 重点事項（努力点）

- 児童に基礎・基本の学力を定着させるとともに、課題発見・課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図り、自ら活用する力を向上させる。
- 児童の主体性（目標に向かって挑戦する力）の向上、及び、協働性（自ら積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする意欲や能力）の育成を図る。
- 「新コア・カリキュラム」を中心とした地域をテーマにした学習を通して、郷土愛の育成を図る。

V 中心価値・行動規範

- 児童をほめ、認め、伸ばすことで、児童の自己肯定感を高める。
- 教育的愛情をもち、授業改善や指導力向上に努めることで児童に確かな学力をつける。
- 組織人としての自覚をもち、学校の課題を自分の課題として取り組む。
- 川地中学校区内の校種間の連携による教育（保小連携、小小連携、小中一貫教育）を推進し、取組の成果を保護者や地域に広く情報発信する。

VI 現状分析

学校の内外環境の分析

外部環境	○支援的要因 【地域】 ・豊かな自然環境 ・地域の教育的資源が豊富 ・専門的な知識をもった人材の協力 俳句・防災教育 米作り・キャリア教育 福祉教育	S強み 【学校】 ・全児童の情報を共有し細かく指導を行うことができる ・全校活動が行いやすい人数 ・協業的校風 【児童】 ・素直で落ち着いている児童 ・何事にも興味をもって取り組む ・縦割り班による高学年のリーダー性の発揮 【保護者】 ・授業参観や懇談会の参加率高い	内部環境	○地域の特色やよさを積極的に取り入れた教育活動の推進 ・目的を明確にした地域学習や交流 ・ゲストティーチャー等地域人材の発掘・活用（人材バンク作成） ○川地小中一貫教育の推進 ・「情報を整理する力」の育成 ・表現力の育成 ○基礎・基本の学力を定着 ・協働的、主体的な学びを実現する授業研究スタイルの導入 ・ICTの有効的活用 ・ドリルタイム等を活用した個に応じた支援 ・読書活動の充実 ○情報発信 ・通信の内容の工夫
	T（阻害的要因） 【地域】 ・校区が広く見学等に行きにくい ・過疎化による地域の施設等の減少	W（弱み） 【学校】 ・校務分掌の担当者としての自覚の弱さ（組織的な業務の遂行・引継ぎ） ・全体で確認したことの徹底が不十分（指導が徹底しない） ・ 【児童】 ・場面によってルールを守れない ・自分の言葉で伝える力が弱い ・人間関係の固定化、関わり合う力の不足 ・学習の定着度に個人差がある ・耐性（我慢する力、耐える力）が弱い 【保護者】 ・保護者同士のつながりが希薄 ・PTA活動への参加意識が低い		○見通しを持った業務遂行 ・分掌部会の機能化 ・報・連・相・確認の徹底（いつ・だれがを明確にした起案・取組） ・意識統一した指導の徹底（暮会での児童交流） ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進 ○集団づくり ・PDCAサイクルによる児童の主体的な活動を成功体験につなげる ・「6つのきまり」を基軸とした日常的な取組の推進 ・安全安心が保障された学級集団の育成 ・児童会・委員会活動の見える化

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

中期経営目標		短期経営目標	達成目標	取組・方策
【確かな学力】	基礎学力の定着とそれを基盤にした思考力・判断力・表現力の育成を図る。	協働的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・協働的・主体的な学びについてのふり返りアンケートを学期に1回行い、肯定的に回答している児童を増やす。	・児童一人一人が課題を解決できるようにペア、グループでの活動や全体交流などの「かかわり合う」授業を仕組む。 ・「わくわくいっぱい」の授業を行い、児童の「もっとやってみたい」という思いを引き出し、目的をもって自主学習に取り組ませる。
		自分の考えや思いを、適切な言葉を用いて表現する力を育成する。(表現・判断)	・単元末テストにおいて、思考・判断・表現の項目の正答率を70%以上にする。 ・「評価問題」の正答率を80%以上にする。	・かくぞう朝会や各教科の学習で自分の考えを書く機会を確保し、書くことに慣れ親しませる。また、語彙シートを活用し学習用語を使って書く力や条件に合わせて書く力を高めていく。 ・「ちからをつける」授業を意識し、数学的な見方・考え方を働かせて問題解決をする姿を評価していく。
【豊かな心と健やかな体】	共感しあい、主体的にたくましく生きる児童の育成を図る。	「協働性」「主体性」を意識し、高めようとする児童を育成する。	・「6つのきまり」の5項目「友だちを大切にします」「あいさつ返事をきちんとします」「掃除を一生懸命します」「人の話をしっかり聞きます」「時間を守って行動します」についての児童アンケートで、それぞれの項目の達成率の平均を80%以上にする。	・毎月の生活目標を「6つのきまり」と関連付けて設定する。 ・掃除で、ふり返りを通して友だちと協力して取り組むことを意識させたり、掲示の活用を通して友だちのがんばりを認め合わせたりする。 ・委員会活動を中心に、自治活動を展開させる。 ・縦割り班活動や複式学級での学習、学習の成果を披露しあうなどの異学年交流の機会をもつ。
		自分の心や身体に関心を持ち、健康づくりに取り組む児童を育成する。	・「6つのきまり」の「健康・安全に気をつけます」についての児童アンケートで肯定的評価をしている児童を80%以上にする。	・3快チャレンジ、メディアコントロール、スクールランチパーフェクト大作戦等の食育指導を通して、健やかな体づくりへの意欲を高める。 ・新体力テストで昨年度の課題改善に向けて全校で統一した取組や、一人一人に目標をもたせる取組を行う。
【信頼される学校】	保護者・地域から信頼され愛される学校をつくる。	保護者・地域の学校に対する満足度の向上を図る。	・保護者アンケート(年2回)で学校への満足度を90%以上にする。 ・各種たより、HP更新を月1回以上行う。 ・小中・小小・保小・地域と連携した取組を学期に1回以上行う。	・学校だよりや学級通信、HP等を通して、学校・学級の「わくわく」感を高める取組・様子が保護者の方・地域の方等に伝わるように情報発信する。 ・川地保育所との交流活動、青河小学校・川地中学校とのリモート授業・児童会生徒会交流、川地中学校区全体での共同活動など、具体的な取組を積極的に取り入れ、教育活動の質の向上やスムーズな接続を図る。 ・CS2年目として、地域の方に積極的に来校・参加していただく場を設定し、教育活動の質の向上を図る。
		教職員の授業力と組織力の向上を図る。	・教職員アンケート(年2回以上)で肯定的評価している職員を80%以上にする。(授業改善、情報共有し組織として機能、学校経営に参画、分掌の協力。)	・各種研修会に参加し、学んだことを校内へ還流する。 ・授業研究において、つけさせたい力を明確にした研修を行い、授業力向上を図る。 ・分掌部会においてそれぞれの役割を自覚するとともに、全教職員で協力しながら組織的に業務を進める。